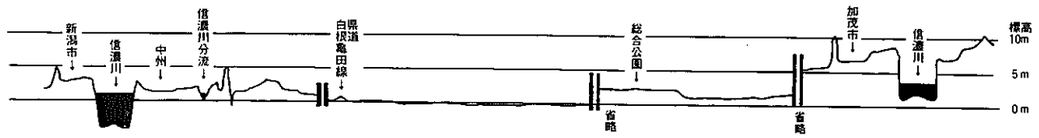
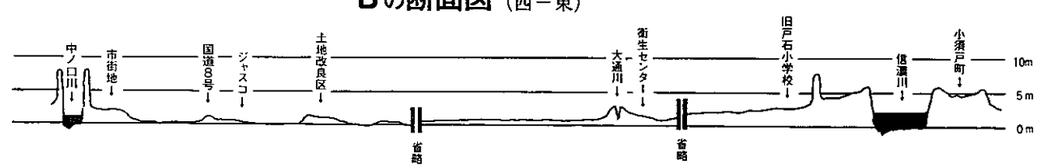
## 白根市の断面図

### Aの断面図（北－南）




### Bの断面図（西－東）




上の断面図は、左図のA線とB線で断面したものです。信濃川や中ノ口川の堤防が決壊したり、川の水が越水したりしたときは、一気に濁流が流れ込んでしまうことが分かります。

とんどは「水防上危険なため、最も重要な所」として指摘されているほどです。

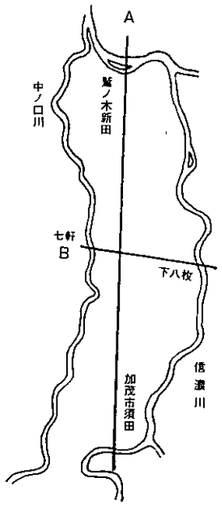
信濃川堤防は、大正時代、「大河津分水の完成により水害の危険性は無くなった」としていったん低く削られました。その後、低部対策事業で元の高さに戻ったものの「それでは何百年に一回という大水害に対応できない」ということで、現在、国では市内全域の信濃川堤防を二メートルほどかさ上げする堤防強化対策事業に取り掛かっています。その第一期事業では平成十六年ころまでに、鷲ノ木桜町から小須戸橋までの区間が改修される予定で、桜町ではすでに工事が始まっています。しかし完成までの長い年月を考えれば、まだまだ危険と隣合わせといった現状です。

### ■水の出口がない いざとなれば大惨事にも

図2は市内を縦・横二つに切って、川面との高さを比較したものです。いったん堤防が破れたり越水したりすれば、濁流が流れ込んでくるのが一目瞭然にお分かりいただけると思います。

白根の地形で最もやっかいなのは水が外に出ていかないことです。市内には五つの排水機場があり、農業排水や雨水などをポンプでくみ上げて、中ノ口川へ放流しています。ただしその排水能力は十分とは言えません。

もし破堤や越水で川から水が流れ込んだりすれば、その出口はなく、各排水機場をフルに稼働しても水がひけるまでには何日かかるか分かりません。これといった高台のない白根市では、大惨事になる危険性は相当に高いと言えるでしょう。




西暦一六〇〇年から約三百五十年の間に、越後平野で記録に残る大洪水は九十四回起こっています。平野の真ん中に位置する白根市の歴史はまさに水との闘いの歴史でした。

河川改修が進み、水害の恐怖を私たちは忘れつつあります。しかし雨などで増水したときに私たちが水面下にいることは、今でもまぎれもない事実なのです。市では毎年「水防計画」を作り、災害時に的確な対応が取れるよう備えています。しかし災害時には何が起こるか分かりません。私たちは、白根市がこうした地理的環境にあることを十分理解し、いざというときのため、水への認識と備えを万全にしておきたいものです。

▲桜町付近の完成堤防





## もしも洪水が起きたら

非常事態では、停電や交通網の寸断、家財や食糧の流出など日ごろ想像もつかないような混乱が生じる可能性があります。日ごろから万一の場合の対策を考えておきましょう。

**■非常時の心掛け**

**①非常持ち出し品の事前準備を**
避難するときの荷物は、貴重品、食料、衣類、日用品など必要最小限に

**②正確な情報と自主的避難を**
ラジオ、テレビの気象情報、災害情報に注意しましょう。危険を感じたら自主的に避難しましょう。

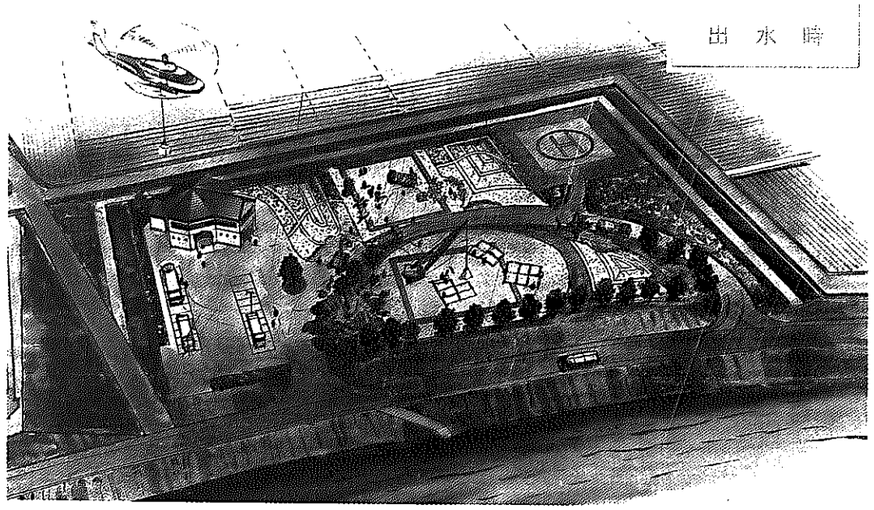
**【川の水位に関するテレホンサービス】**
中ノ口川…☎230・4329
信濃川　…☎233・4881

**③避難の呼び掛けに注意を**
広報車や防災行政無線に注意しましょう

**④お年寄りなどの避難に協力を**
お年寄りや子供は、早めに避難をさせましょう。また、近所のお年寄りや子供、体の不自由な人などの避難に協力しましょう。

**⑤グループで行動を**
避難するときは、動きやすい服装で。必ず二人以上で行動しましょう

**⑥車での避難は控えて**
車での避難は、特別の場合を除いて控えましょう。




## 水防活動の拠点 信濃川沿いに整備

### 赤渋地区河川防災ステーション

洪水が起きたとき、水防活動の拠点となる「河川防災ステーション」が信濃川沿いの赤渋地内に建設されることになり、七月に起工式が行われました。

河川防災ステーションは、建設省が平成六年度から始めた事業。平成八年度末現在、全国三十八カ所で事業が進められています。

白根市に設置される防災ステーションは、県内では京ヶ瀬村に続いて二番目。総事業費約七億円で、建設省と白根市が一体となって事業を進めます。整備期間は平成八年度から十二年度までの五カ年。すでに、平成八年度に用地買収が終わり、九・十年度で盛り土などが行われた後、ヘリポートや水防センターなどが整備されます。

起工式では、竹内市長が「白根市は中ノ口川と信濃川に囲まれた輪中地帯。昔から幾度となく大災害に見舞われ、水と闘ってきた。防災ステーションは、効果的な水防活動を行う拠点として、平常時には、レクリエーションの場として地域の発展に大きく寄与するものと思う」とあいさつしました。その後、市長ら代表者四人がスイッチを入れると、工事安全ランプが回転し、ブルドーザーが土砂の山を押し出しました。

ステーションは、平常時には、そのスペースを活用して、市民の憩いの場となりますが、非常時には、敷地内にある土砂や竹木などが水防資材として利用されるなど、水防活動の前線基地になります。